

## 図書館だより

●開館時間●

9:00～18:00

●11月の予定●

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

■ 休館日

■ おはなし会

■ ひろたのみんなのおはなし会

■ にここほっぺのおはなし会

砥部町立図書館

☎(962)4400

## 新着紹介

『どこからか言葉が』

谷川俊太郎

『うらんぼんの夜』

川瀬 七緒

『姉の島』

村田喜代子

『雨の日は、一回休み』

坂井希久子

『琥珀の夏』

辻村 深月

『まりも日記』

真梨 幸子

『世阿弥最後の花』

藤沢 周

『大連合』

堂場 瞬一

『神よ憐れみたまえ』

小池真理子

『ブレイクニュース』

薬丸 岳



『罪の因果性』  
横関 大  
KADOKAWA 刊

3年前のストーカー殺人事件で、人生を狂わされた元市役所職員・佑美のもとに、星谷と名乗る謎の男が現れる。彼による事件の「再検証」が、壮大な悲劇の連鎖を明らかにし…。書き下ろしクライム・ミステリー。



『長い一日』  
滝口 悠生  
講談社 刊

小説家の夫と妻を巡る、長いつきあいの友人たちやまわりの人々、日々の暮らしの中でふと抱く静かで深い感情、失って気付く愛着、交錯する記憶…。かけがえのない時間を描いた長編小説。



『パスタの本』  
有元 葉子  
東京書籍 刊

キャベツとアンチョビの Pasta、いかとトマトのパッケージ、ペンネ・アラビアータ、カネロニのグラタン…。「Pastaは日常食」という著者が、さまざまパスタ料理を紹介。

## 役者 井上正夫

☎(962)5952  
社会教育課文化スポーツ係

井上正夫は、常に新しい試みをした俳優です。その一つに、野外劇があります。野外劇とは屋外で自然を舞台に演じられる劇のことです。

1913（大正2）年11月1日17時過ぎ、東京日暮里の旧佐竹邸跡で、井上は泉鏡花作の「紅玉」を上演しました。

「紅玉」は夢と現実の境界がいまいな、幻想的な作品です。ある日の夕暮、若い画家が自分の描いた絵を担ぎやって来て野原で横になっていると、侍女やカラス、老紳士らが現れ会話をくり広げます。暗くなり画家以外の姿が消え、目を覚ました画家が自分の絵を出し、そこにはカラスが描かれていたという話です。井上は画家の役を演じました。

話の内容に合わせて、原っぱの小さい場所に舞台を設け、見物席はむしろを敷き、観客は200人以上。45分間ほどで終了したということです。

当時の新聞には、野外劇上演の挑戦を非常な成功と評価したものもありましたが、演劇評論家から

は、寒いだけであっけないもの、試みというほどの試みもしていない、という厳しいものもありました。

上演後、野外劇の写真や井上の挨拶などを入れた「記念帖」が配られており、そこで井上は、極めて見苦しいものをお目にかけるような結果であり、充分にこれを研究して意義のあるものにすると思っています。

井上はその後も、連鎖劇、映画、舞台などで活躍していきませんが、その活躍はそれまでの経験を活かし、研究や努力を重ねたからと言えるのではないのでしょうか。

(学芸員 宮本直美)



野外劇ワンシーン（中央：井上正夫）  
（「第一回野外劇場記念（絵葉書帳）」  
愛媛県美術館所蔵）